

第2四半期決算説明会

2025年3月期

2024年11月27日
株式会社 大真空（証券コード：6962）
常務取締役 事業統括
営業本部長 長谷川 晋平

2025年3月期 第2四半期実績（前年同期比）

増収減益（営業利益）

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	前年同期比	
単位：百万円			増減	増減率
売上高	19,332	19,438	105 ↑	0.5%
営業利益	901	443	△ 457 ↓	△ 50.8%
経常利益	1,977	△ 550	△ 2,528 ↓	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,391	△ 498	△ 1,889 ↓	—
USD平均レート（円）	141.06	152.78	11.72 ↑	—

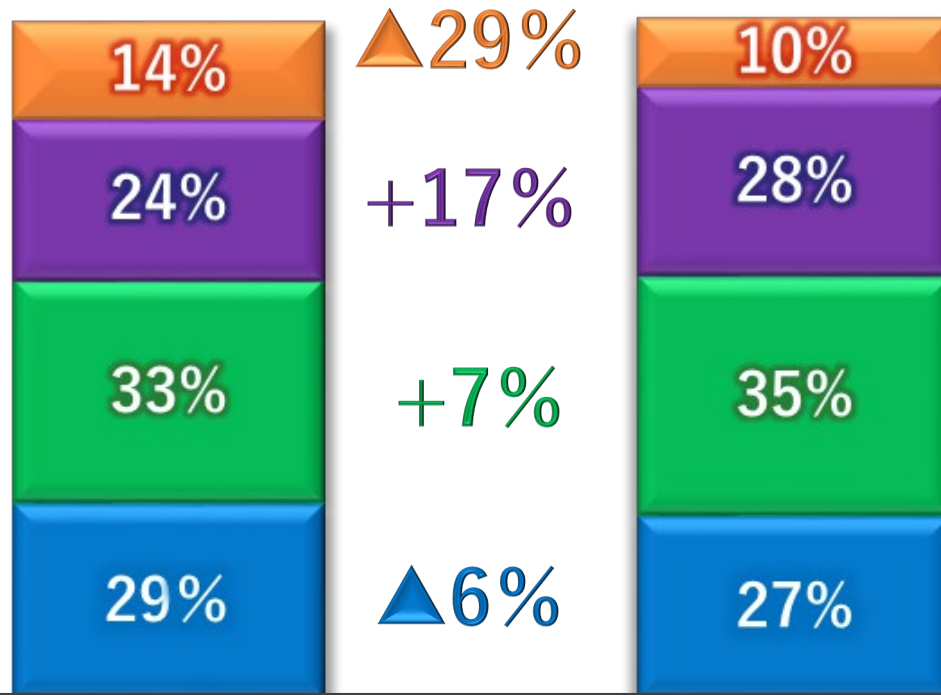
マーケット別販売実績（前年同期比）

車載、民生向けは堅調に推移

2024年3月期
第2四半期
193億円

<売上高増減率>

2025年3月期
第2四半期
194億円



(構成比)

(構成比)

産業



設備投資抑制の影響で
FA/ロボット需要が低迷

民生



PC関連、ウェアラブル向け
などが堅調に推移

車載



地域ごとに濃淡はあるものの
総じて堅調に推移

通信



中国スマホが伸び悩み

営業利益 増減分析（前年同期比）

2024年3月期
第2四半期

△457百万円

2025年3月期
第2四半期

営業利益
901百万円

価格変動
(為替影響含む)
+290百万円

USD平均レート(円)
2023年4-9月：141.06
2024年4-9月：152.78

販売数量
生産数量
ミックス変化
限界利益の変動
△120百万円

製造部門
労務費の増加など
固定費変動
△270百万円

間接部門
人件費／減価償却費
本社引越し費用の増加など
販管費他の変動
△360百万円

営業利益
443百万円

2025年3月期 第2四半期実績（直前四半期比）

減収減益

	2025年3月期 4-6月	2025年3月期 7-9月	直前四半期比	
単位：百万円			増減	増減率
売上高	9,827	9,611	△ 216 ↓	△ 2.2%
営業利益	416	27	△ 388 ↓	△ 93.4%
経常利益	836	△ 1,387	△ 2,224 ↓	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	379	△ 878	△ 1,258 ↓	—
USD平均レート（円）	155.85	149.71	△ 6.14 ↓	

マーケット別販売実績（直前四半期比）

総じて横ばい圏で推移

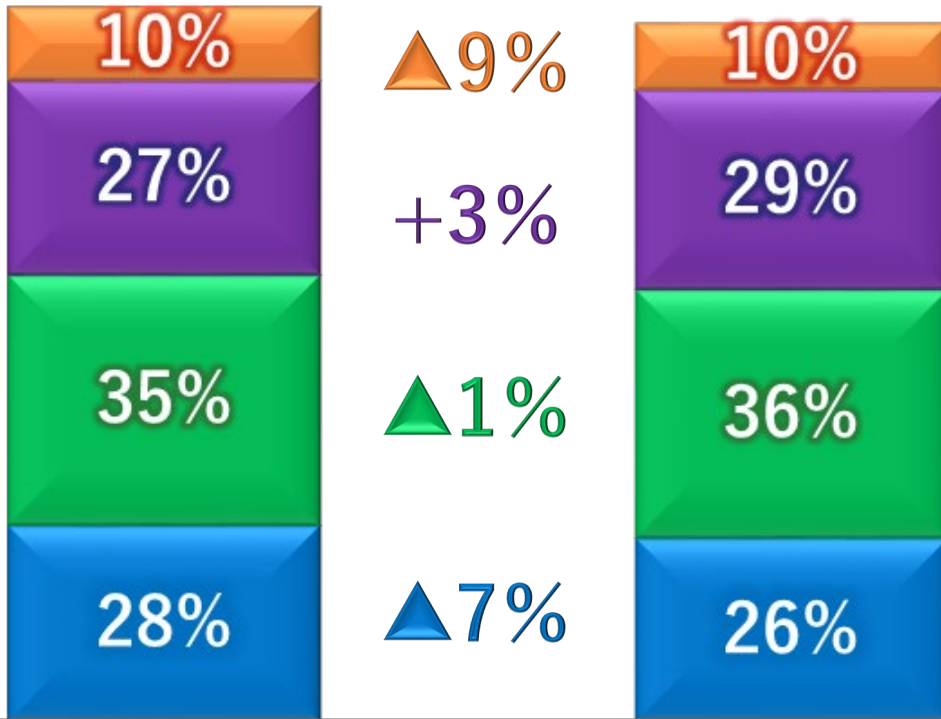
2025年3月期
4-6月

98億円

<売上高増減率>

2025年3月期
7-9月

96億円



(構成比)

(構成比)

産業



設備投資の抑制や部品在庫の調整が継続

民生



PC関連が伸び悩んだもののゲーム向けなどが堅調に推移

車載



欧州の新車販売低迷などにより横ばい圏で推移

通信



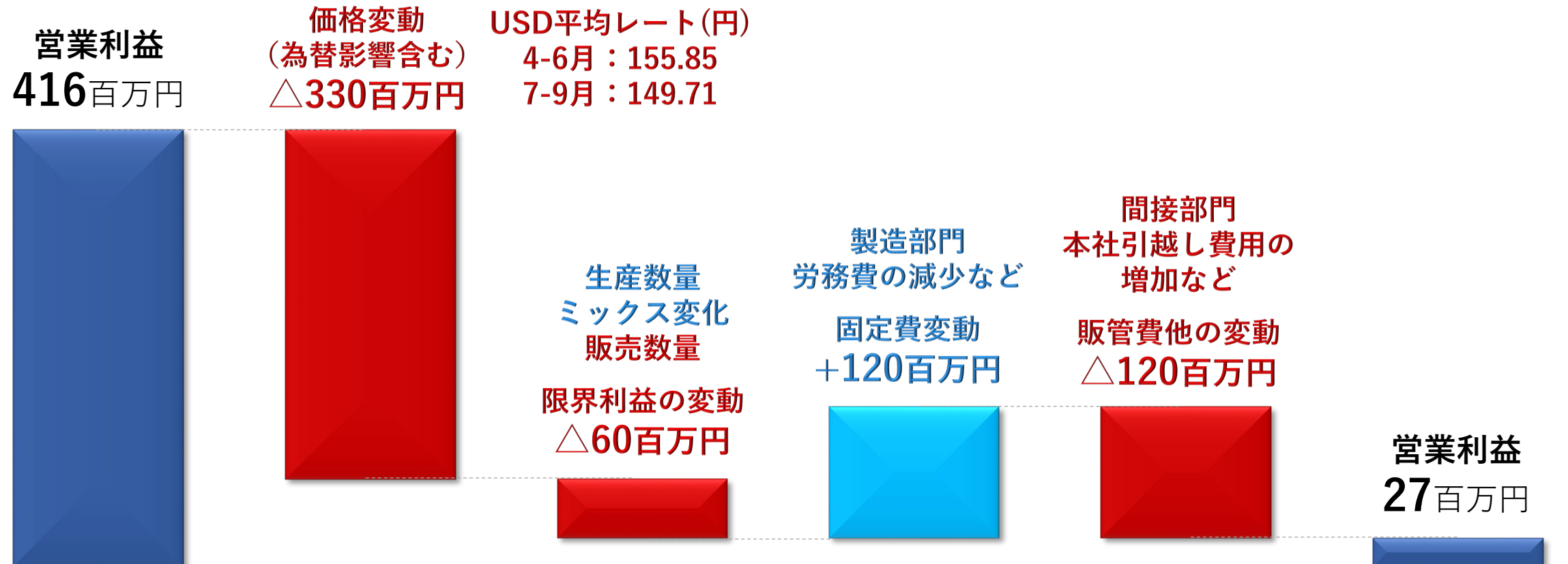
TCXO需要は旺盛であるものの供給が追いつかず伸び悩み

営業利益 増減分析（直前四半期比）

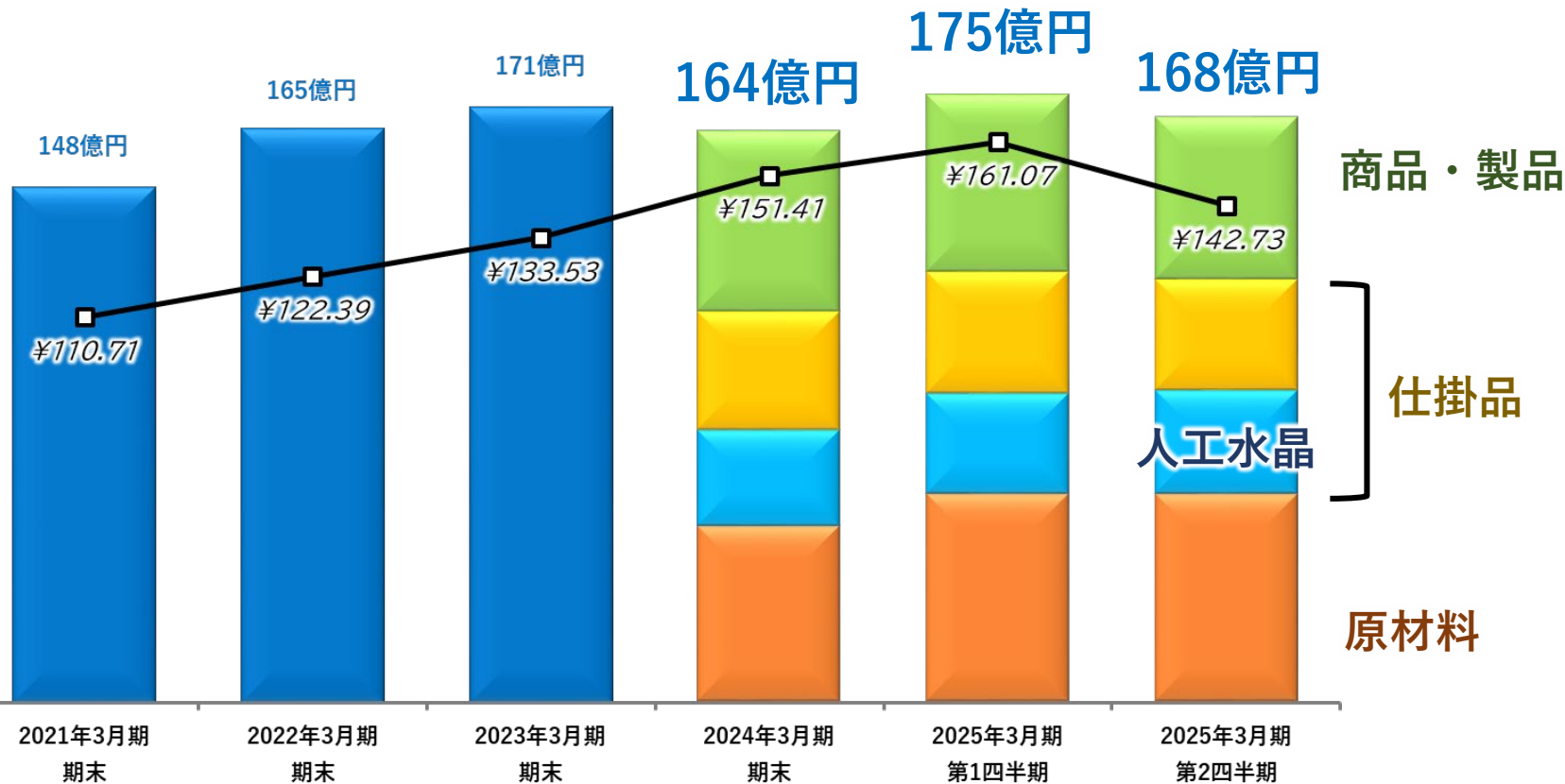
2025年3月期
4-6月

△388百万円

2025年3月期
7-9月



棚卸資産推移



2025年3月期 第2四半期
前期末比 +4.5億円

- 商品・製品は計画通り削減
- 仕掛品は2Q以降のTCXO増産に向け部材が増加
- 原材料は部材高騰のため先行手配し増加

設備投資／減価償却費／研究開発費

(単位：百万円)

前年同期比	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減
設備投資	2,229	5,999	3,770
減価償却費	1,859	1,978	119
研究開発費	1,073	1,037	△ 36

直前四半期比	2025年3月期 4-6月	2025年3月期 7-9月	増減
設備投資	385	5,614	5,229
減価償却費	992	986	△ 6
研究開発費	503	534	31

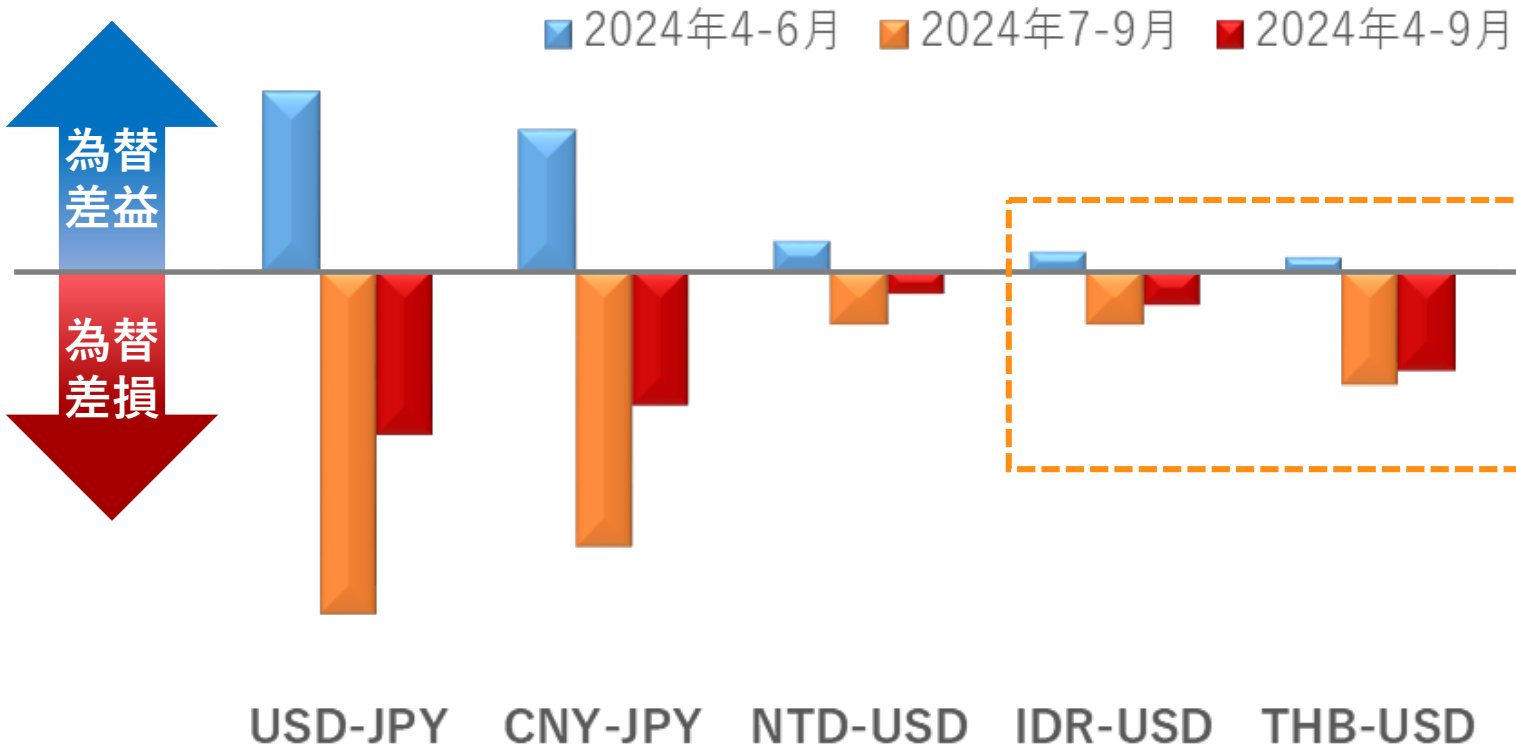
設備投資は本社工場関連で増加



▶ 2024年8月竣工

営業外費用 為替差損益

為替影響額比較



- 為替相場が2024年3月末に対し
6月末は円安 → 為替差益
9月末は円高 → 為替差損

<ドル円相場の推移>

2024年3月末	2024年6月末	2024年9月末
151.41円	161.07円	142.73円

- アジア通貨において、2024年3月末と6月末の変動幅より9月末との変動幅の方が大きく、為替変動による影響額も拡大

業績予想

期初計画から変更なし

単位：百万円	2025年3月期 上期	2025年3月期 下期	2025年3月期 通期予想
売上高	19,438	20,562	40,000
営業利益	443	1,057	1,500
経常利益	△ 550	1,550	1,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 498	998	500
設備投資	5,999	1,301	7,300
減価償却費	1,978	2,522	4,500
研究開発費	1,037	1,463	2,500
USD平均レート（円）	152.78	145.00	145.00

マーケット別販売見込み

春節影響があるものの総じて堅調に推移

上期 → 下期
販売見込み

通信



4Qは春節影響があるものの、TCXOの増産対応によりGPS/GNSSモジュール向けなどが増加見込み



車載



上期と同等の水準感ながら、ADAS向けを中心に水晶発振器など高付加価値製品が増加見込み



民生



年内はPC関連やゲーム関連が堅調に推移するも、4Qは春節影響が顕在化する見込み



産業

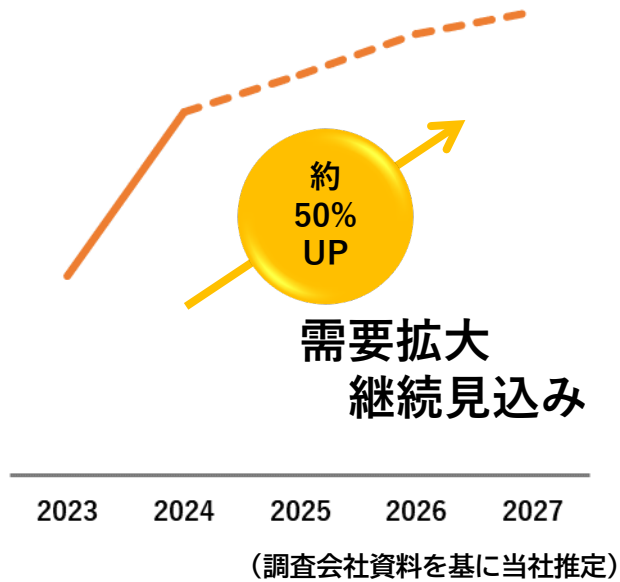


特にFA／ロボットマーケットは低調に推移しており回復時期は来期以降の見込み



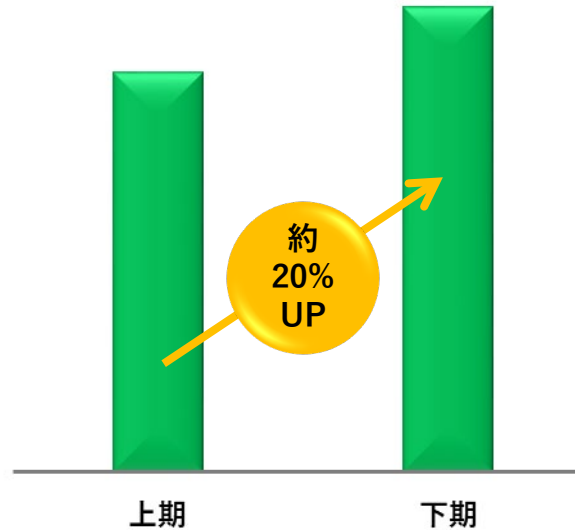
TCX0の見通し

需要数量予測



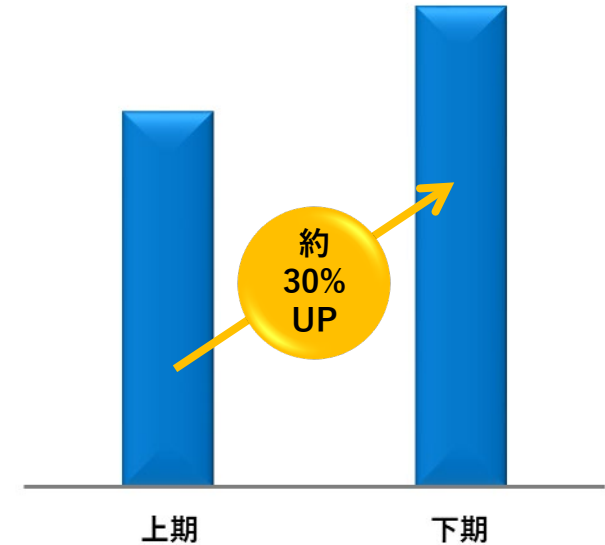
GPS/GNSSモジュール、
車載通信、スマートメーター
などが牽引

販売数量 上期:実績/下期:見込み



足元は活況
上期を上回る販売見込み

生産数量 上期:実績/下期:計画

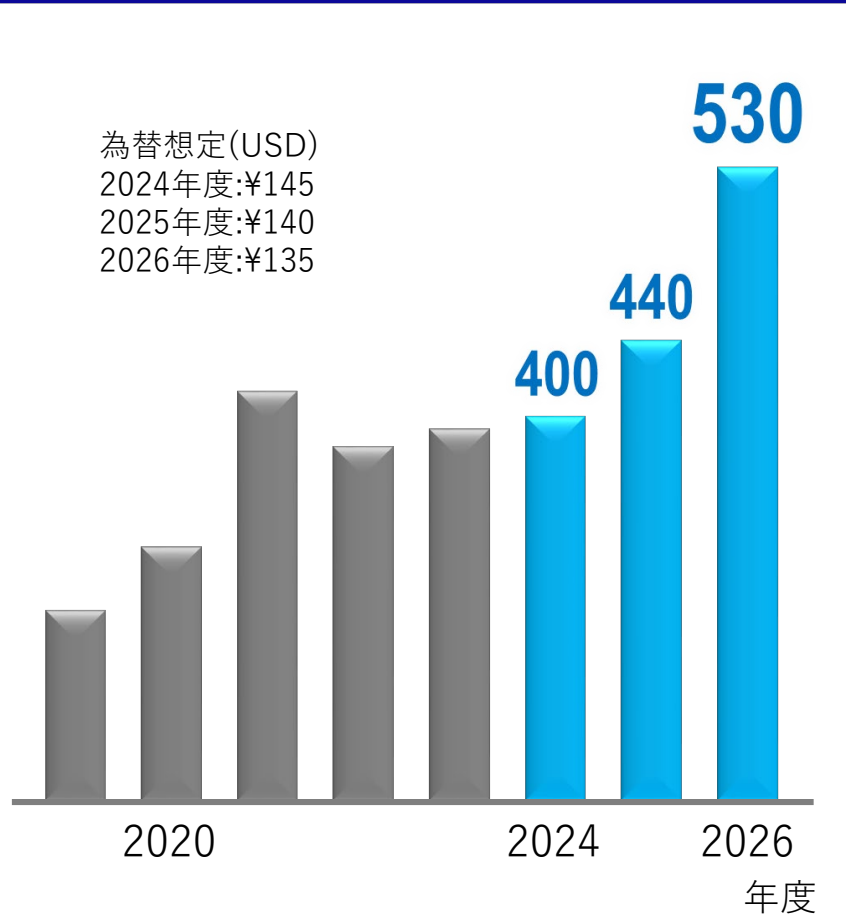


増産対応中
注残解消へ

第二中期経営計画

－ 売上目標と市場動向 －

売上高（億円）



2026年度 売上高拡大の背景



自動運転



生成AI
データセンター



ウェアラブル



GPS/GNSS
モジュール

重要成長市場に対して
要求仕様を満たす製品群で
需要に対応する

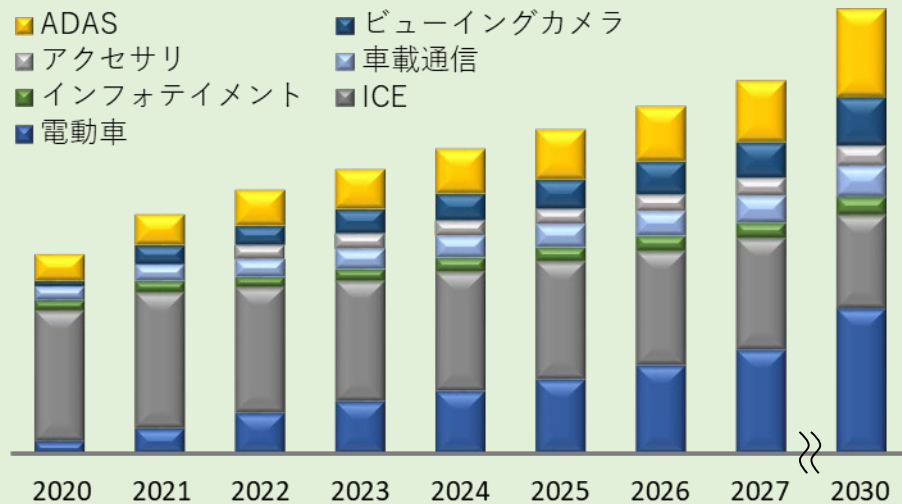
自動運転

－ 冗長設計により水晶デバイス搭載が2倍に －

市場動向

- 車のスマホ化 スマートフォンと同じく、ソフトウェアアップデートで常に最新機能に
- 冗長設計 1つのシステムが故障しても、もう1つのシステムで機能を維持する設計
- EV化 車のみならず、電気自動車の充電スタンドも普及

車載水晶デバイス数量予測



(調査会社資料を基に当社推定)



水晶デバイス
への要求

低ノイズ

高温対応

信頼性

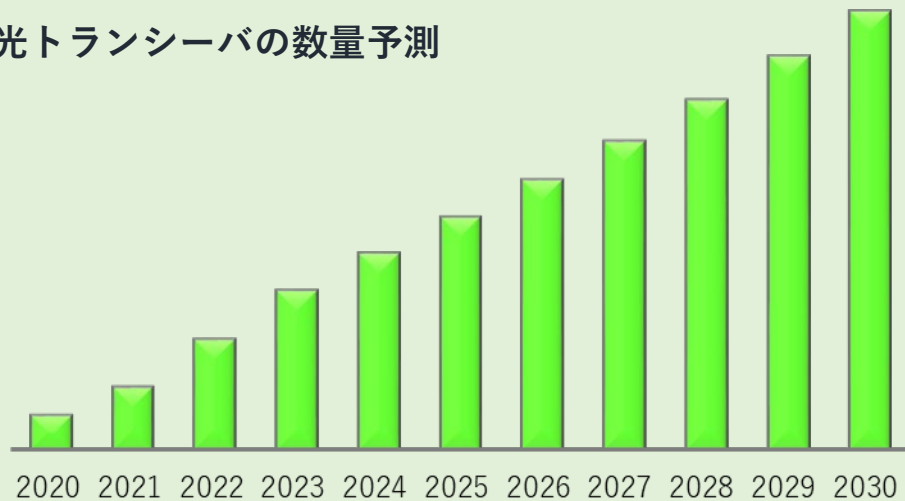
生成AI・データセンター

ー AIの普及、サーバ需要の爆発的増加 ー

市場動向

- AIの進化と共に、強力なサーバインフラが不可欠
- 演算処理の高速化に対応した、光トランシーバの台数が増加
- クラウドAIからエッジAIの普及により、リアルタイムな応答が可能

光トランシーバの数量予測



(調査会社資料を基に当社推定)

水晶デバイス
への要求

低ノイズ

高周波

小型

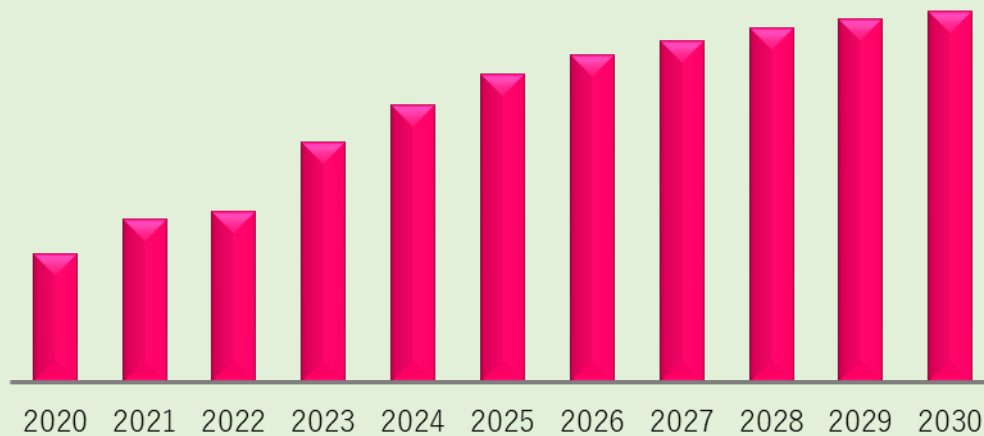
信頼性

ウェアラブル – スマートウォッチ、スマートグラスの本格普及 –

市場動向

- ウェアラブル端末の多機能化
- AR・VR関連、ヘルスケア市場も拡大
- 終日駆動に対応するバッテリースペース確保のため、電子デバイスは小型化が必要

スマートウォッチの数量予測



(調査会社資料を基に当社推定)



水晶デバイス
への要求

小型

薄型

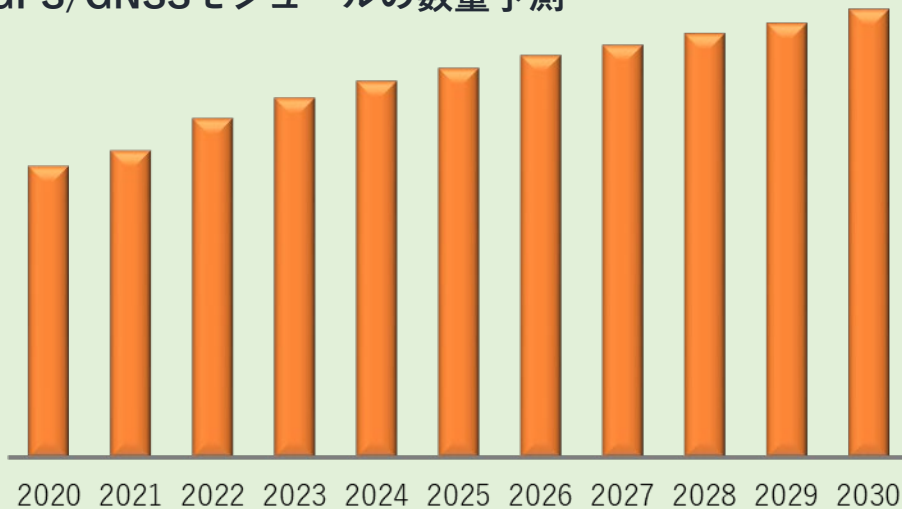
低消費電力

GPS/GNSSモジュール — ドローン、スマートメーター、電動バイクでの拡大 —

市場動向

- 過疎地への配送・高所の点検など、ドローンサービスの成長
- 次世代送電網の世界的普及により、スマートメーターの需要も拡大
- 船舶・航空機・自動車のみならず、トラッキング用途として電動バイクにも搭載

GPS/GNSSモジュールの数量予測



(調査会社資料を基に当社推定)



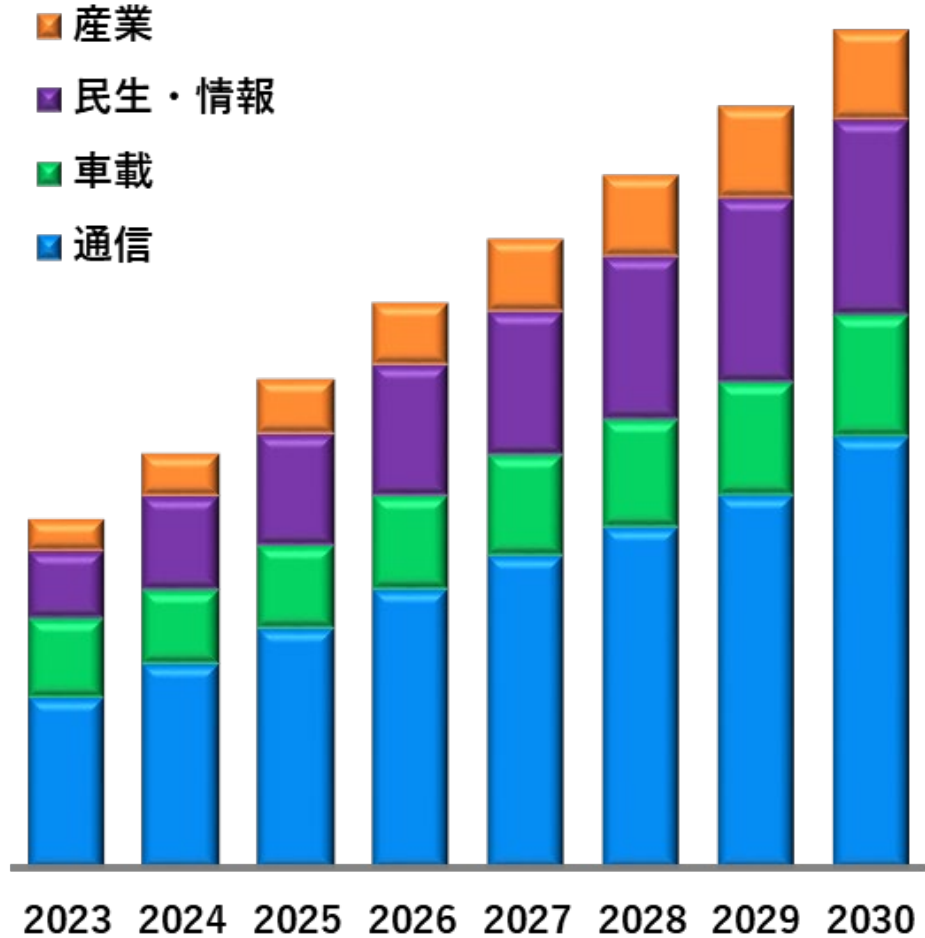
水晶デバイス
への要求

高温対応

温度ドリフト特性

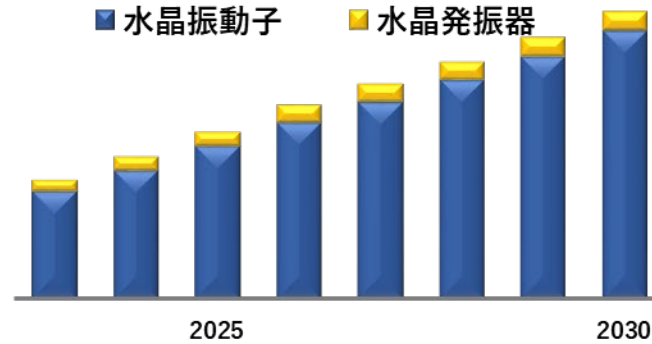
低消費電力

水晶デバイス業界 市場別数量予測

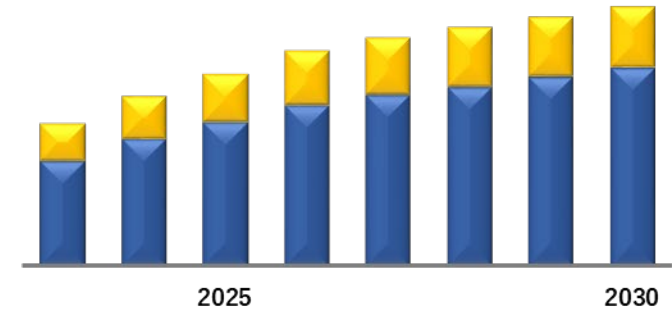


(調査会社資料を基に当社推定)

数量予測



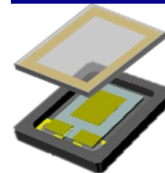
金額予測



(調査会社資料を基に当社推定)

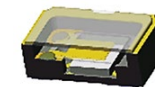
水晶発振器の金額割合が高まる見込み

水晶振動子



水晶ブランク
+ セラミックパッケージ
+ リッド

水晶発振器



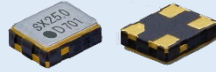
水晶振動子にIC実装

- 発振回路内蔵
- 高周波に伴うノイズ除去
- 広範囲な温度補正

市場要求に対する製品群

Ark.2G

水晶発振器



信頼性

高周波

差動出力水晶発振器



信頼性

高周波

低ノイズ

高温対応

低消費電力

温度補償水晶発振器(TCXO)



信頼性

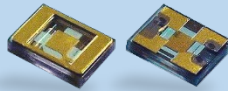
高周波

高温対応

温度ドリフト特性

Ark.3G

水晶振動子



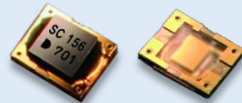
信頼性

高周波

小型

薄型

差動出力水晶発振器



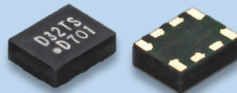
信頼性

高周波

小型

薄型

モールドRTC



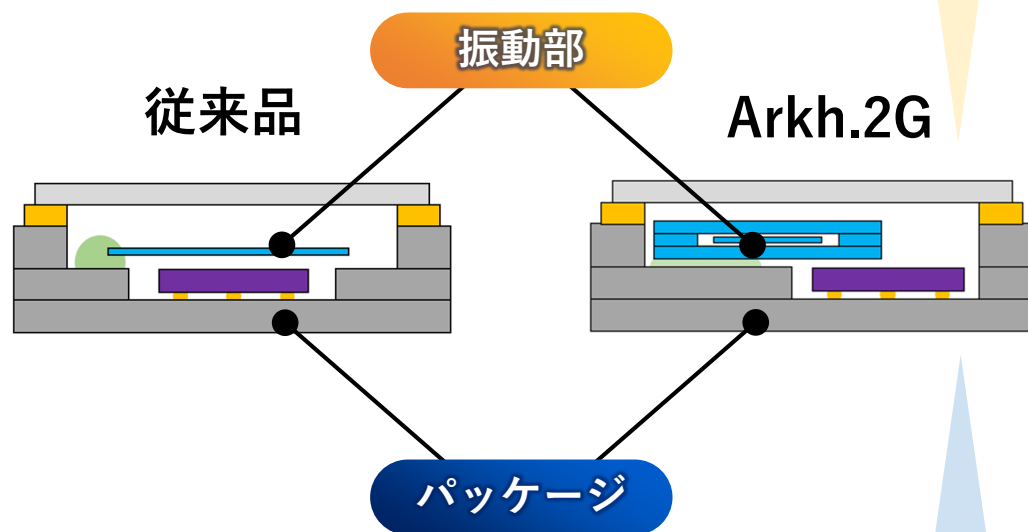
信頼性

高精度

高温対応

Ark.2G 性能優位性

Ark.シリーズの水晶振動子を搭載
振動素子の内部は接着剤不使用のため、
エージング特性など信頼性に優れる
(エージング：経年変化)



従来のセラミックパッケージ製品と同じ外観
振動部とパッケージの接着面積を増やすことで
機械的性能が向上

高温・狭偏差対応が可能

Ark.2G SPXO 狭偏差品

車載Wi-FiやOBCなどの用途に適した、
簡易温度補正機能付 IC により実現

(OBC：電気自動車のバッテリー充電機器)



ドリフト性能改善

Ark.2G 温度補償水晶発振器 (TCXO)

最適設計によりGPS/GNSSなどの
衛星信号に対する感度が向上



Ark.2G 価格競争力

	従来品	Ark.2G
工場	増床必要	既存面積で対応可
設備	多くの工程	コンパクト化により 3~5倍のアウトプット
人員	増員必要	自動化により 省人化可能
工法	個別処理	高効率なウエハ処理
歩留	部材ロス発生	歩留ほぼ100%

環境対応

生産性向上 & CO₂ 排出抑制

長期原価イメージ

増産対応
(多くの設備/工場増床)

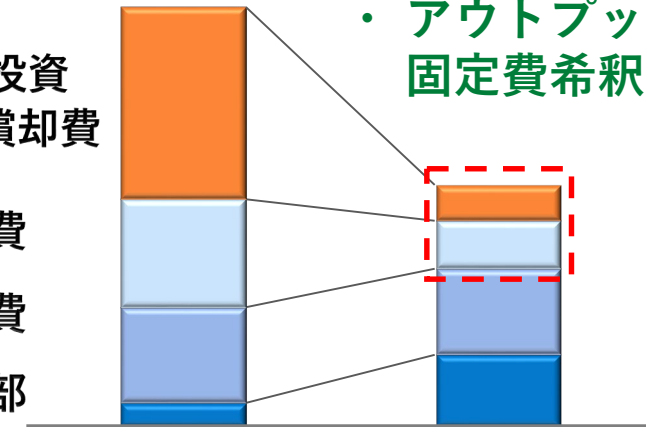
- ・ 増床不要、コンパクトな設備による効率的投資
- ・ アウトプット増による固定費希釈化

設備投資
・ 償却費

加工費

材料費

振動部



従来品

Ark.2G発振器

Ark.2G BCP対応

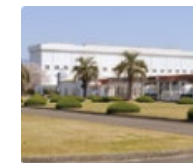


現在

国内
2拠点体制
(組立)



鳥取事業所



徳島事業所

将来

全世界
8拠点体制
(組立)



鳥取事業所



徳島事業所



PT.KDS インドネシア



加高電子(東莞)



加高電子(タイ第1・第2)



九州大真空(宮崎)



天津大真空

既存設備を使用し
どの拠点でも組立可能

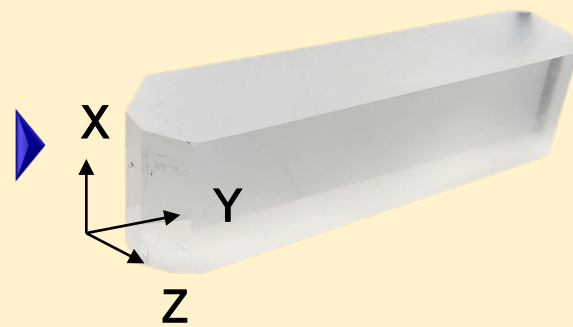
フォトリソウエハ

－ Arkh.2G 原価低減対応 －

人工水晶



ランバード

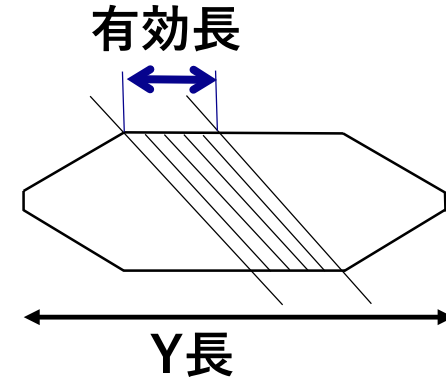


Y長ロング化による原価低減

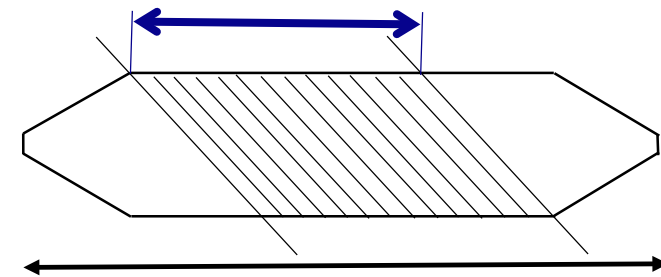
8インチ種使用 4インチ原石
2026年度寄与

1本当たりウエハ取れ数UP

現状



8インチ種使用 4インチ原石



ウエハ取れ数
2.6倍
(当社試算)

フォトリソ製品

－ 安定供給対応 －

第二中期 設備投資計画 3年累計 **150億円**



フォトリソ
Ark.3G
Ark.2G

本社工場

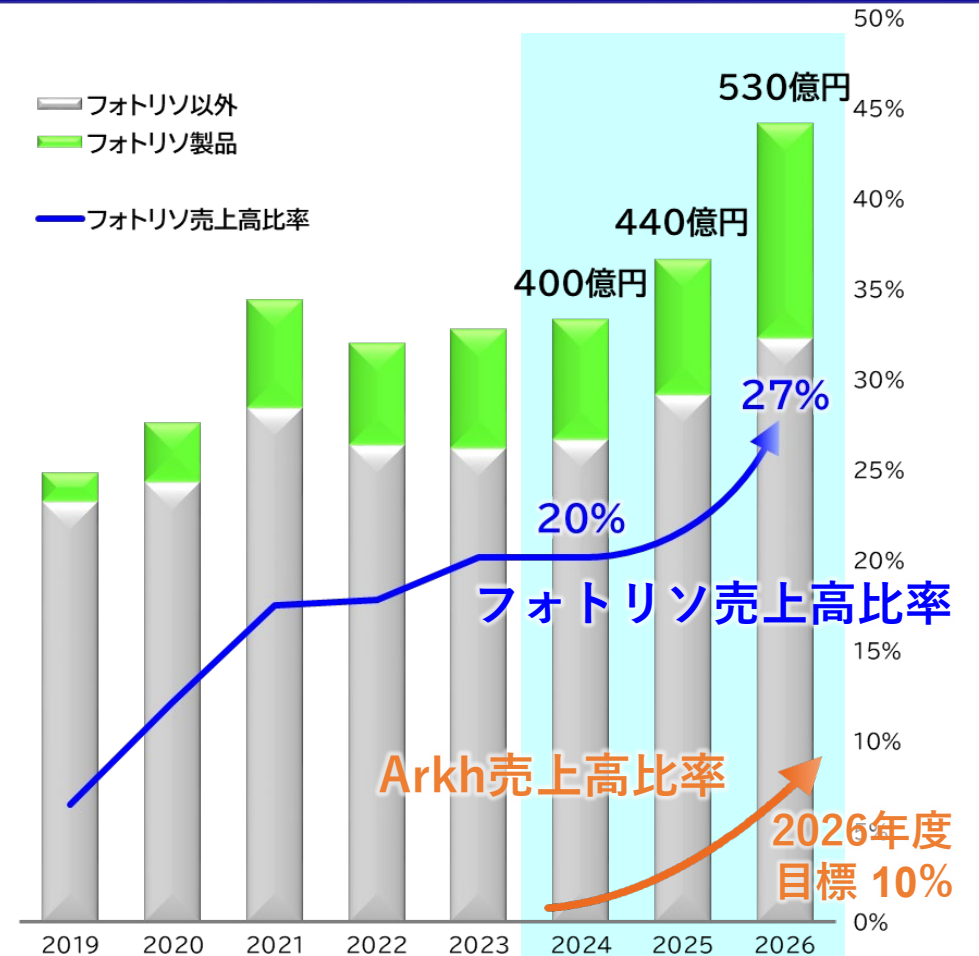
DX他

生産能力増強中

新工法による省スペース設備
+ 既存組立装置の活用

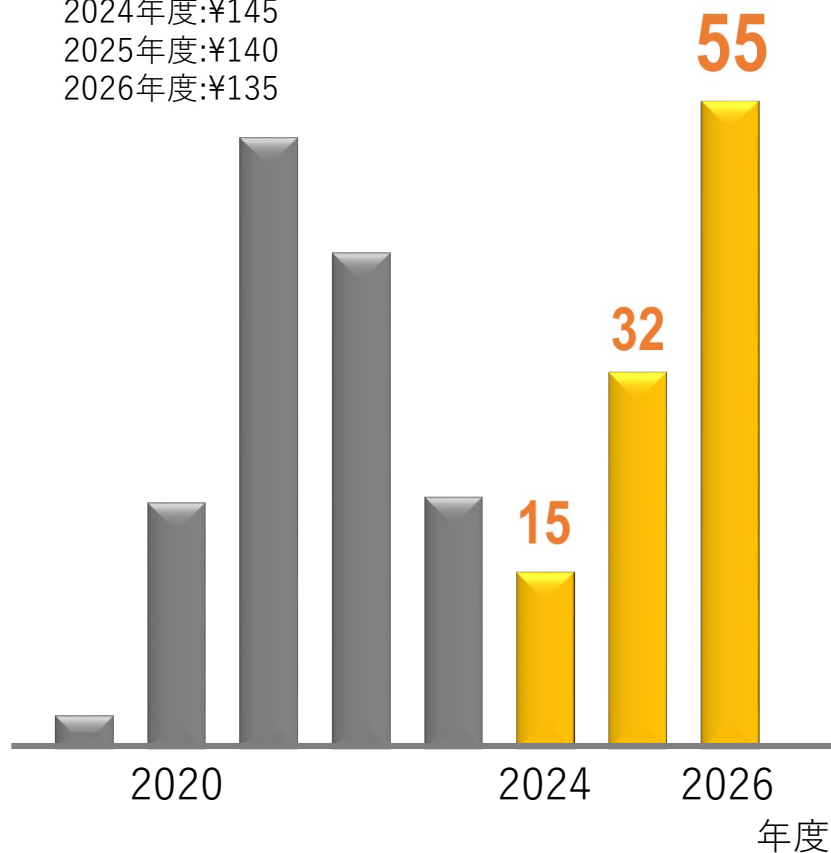
- 単位面積当たりアウトプットの最大化
- 増産に伴う消費エネルギー、CO₂の抑制

売上高推移 フォトリソ/Ark.比率



営業利益 (億円)

為替想定(USD)
2024年度:¥145
2025年度:¥140
2026年度:¥135



2026年度 過去最高益更新

参考：'22年3月期
営業利益51.9億円

収益性追求 売上高530億円

効率性追求 アウトプット最大化

ROIC 4.5 %
ROE 8.0 %

安定供給 + 環境対応 + 企業成長へ

今期の業績予想など将来に関する記述につきましては、現時点で得られた情報に基づき算出しており、不確定な要素を含んでいます。実際の業績は業況の変化などにより、将来に関する記述と大きく異なる場合があります。

また、当社はこの資料の発行後、適用法令の要件に該当する場合を除き、将来に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

